

サンパウロ日本国総領事館 推薦受章者

氏名	肩書き	住所
保久原 淳次 ジョルジ (オクバロ ジュンジ ジョルジ)	作家	サンパウロ市サンパウロ州
(主な功績) 同人は、ブラジル国において作家及びジャーナリストとして活動し、平成 18 年(2006 年)に沖縄出身で同国に移住した父親の生涯を題材とした著書を発表、以降もブラジルに渡った日本人移住者や沖縄出身移住者の歴史、苦労、社会的困難をテーマとする著作を継続して発表し、同国における「日本移民史」への理解促進に努めてきた。また、著作活動に加え、日本人移住者関連のシンポジウムでの講演や、移住 100 周年記録出版への編集委員としての参画を通じて相互理解の促進に寄与している。さらに、令和 5 年(2023 年)にはサンパウロ人文科学研究所理事長に就任し、ブラジルの日本人移住史や日系人、日系社会に関する調査研究に携わっている。		

氏名	肩書き	住所
小田 押本 セルジオ (オダ オシモト セルジオ)	元社会福祉法人こどものその理事長	サンパウロ州サンパウロ市
(主な功績) 同人は、平成 8 年(1996 年)にブラジル国において知的障害者施設「社会福祉法人こどものその」の監査に就任し、その後要職を歴任して令和 2 年(2020 年)に理事長に就任した。以来、日系人をはじめとする知的障害者福祉の向上に長年にわたり尽力してきた。令和 2 年(2020 年)に発生したコロナ禍に際しては、理事長として感染予防対策の徹底、施設整備の充実、医療連携体制の強化を主導し、入居者の健康と安全の確保に努めた。令和 5 年(2023 年)には創立 65 周年記念式典を開催するとともに、各種チャリティー事業を再開するなど、日系社会及び地域福祉の発展にも大きく貢献している。		

氏名	肩書き	住所
小渡 良俊 ニバウド (オド リョウスン ニバウド)	希望の家福祉協会名誉理事長	サンパウロ州サンタナ・デ・パル ナイバ市
(主な功績) 同人は、平成 23 年(2011 年)にブラジル国の心身障害者施設「希望の家福祉協会」の理事に就任、以降要職を歴任して平成 27 年(2015 年)に理事長に就任し、長年にわたり日系人をはじめとする心身障害者福祉の向上に努めてきた。日常的な介助を要する環境において、入居者一人ひとりの選択や自主性、自立性を尊重した支援方針を導入し、生活の質の向上に寄与してきた。また、民間企業で培った経営経験を生かし、専門コンサルタントの助言を取り入れた組織改革を推		

進するとともに、成人用おむつ製造機を導入して経費削減を図り、施設運営の改善と安定化に努めた。これら取組を通じて、日系人の福祉向上に貢献している。

氏名	肩書き	住所
桜井 セリア (サクライ セリア)	ブラジル日本移民史専門家	サンパウロ市サンパウロ州
(主な功績) 同人は、ブラジル国における日本人移住者研究の専門家として、平成3年(1991年)以降、サンパウロ州経済・社会・政治研究所等を拠点に日本人移住者研究に取り組んできた。戦前・戦後の日本人移住者の歴史や日本移民による文学、ブラジル日系人政治家などを研究対象とし、多数の文献や論文を発表して同分野の研究深化に寄与している。平成19年(2007年)に発行した著書『Os Japaneses (日本人)』では、日本の歴史・文化をはじめとする多様な視点から日本人像を解説し、同国で最も権威ある文学賞とされるジャブチ賞を受賞した。また、令和元年(2019年)から6年にわたりブラジル日系文学会の会長を務め、同国内における日系文学の普及に貢献している。		

氏名	肩書き	住所
永江 ネイデ 久恵 丸石 (ナガエ ネイデ ヒサエ マルイシ)	サンパウロ大学哲学・文学・人間科学部 東 洋文学科 准教授	サンパウロ州サン パウロ市
(主な功績) 同人は、平成14年(2002年)にブラジル国サンパウロ州立大学アシス校日本語・日本文学コースで教鞭を執り、その後、平成21年(2009年)にサンパウロ大学の助教授として日本語、日本文学、日本文化に関する講義を行い、長年にわたり日本語教育・日本研究の発展に寄与してきた。また、研究者としては、『雪国』、『暗夜行路』、『土佐日記』をはじめとする日本文学作品や『日本文化における時間と空間』というエッセイの翻訳・共訳によって、日本文学研究の深化に資する業績を示した。さらに、令和3年(2021年)にはブラジル日本文化福祉協会の文芸委員に就任し、若手日系文学者の発掘・表彰に努めるなど、日本語の普及と日本研究者の育成に貢献している。		

氏名	肩書き	住所
吉田 エドワルド (ヨシダ エドワルド)	日伯文化連盟理事長	サンパウロ州サンパウロ市

(主な功績)

同人は、平成 17 年(2005 年)にブラジル国の日伯文化連盟の評議委員に就任し、その後要職を歴任して令和元年に会長に就任し、長年にわたり同連盟を支えてきた。財政の健全化を進めて安定した運営基盤の整備に努めるとともに、日本文化事業を通じて文化交流の推進に寄与した。また、約 40 年に及ぶ日本企業での勤務経験を生かし、現地に進出する日本企業との連携強化にも努めた。さらに日本語教育については、コロナ禍にあってはオンライン教室の拡充や若手理事の登用を進めることで運営を強化し、令和 7 年(2025 年)2 月にはサンパウロ市リベルダーヂ地区に新センターを開所するなど、日本語の普及にも貢献している。

氏名	住所
カンポグランデ沖縄県人会	カンポグランデ市／マット・グロッソ・ド・スール州
(主な功績)	
同団体は、大正 11 年(1922 年)にブラジル国カンポグランデ市に移住した沖縄県人により設立され、沖縄の文化普及に尽力してきた。沖縄そばが同市で普及し、平成 18 年(2006 年)には同市の無形文化遺産に登録されるに至ったほか、近年「おきなわ祭り」を主催する他、市内で開催される「そば祭り」や「日本祭り」において、同団体は太鼓や沖縄舞踊などを披露し、沖縄文化の普及と友好親善の促進に寄与している。また、沖縄県と友好姉妹関係にあるマット・グロッソ・ド・スール州において、沖縄県からの要人受入れや皇族ご訪問の歓迎行事などに積極的に携わり、日伯交流の推進にも貢献している。	

在ブラジル日本国大使館 推薦受章者

氏名	肩書き	住所
クララ・セツコ・アンドウ	ブラジリア国費留学生同窓会 (ABRAEX) 会長	ブラジリア連邦直轄区
(主な功績)		
同人は、平成 13 年にブラジル国で国費留学生同窓会の幹部に就任し、その後副会長を経て、令和 7 年に会長に就任。長年にわたり、元留学生同士の連携強化や各種留学制度の周知、会運営のための資金調達などに尽力してきた。元留学生同士のネットワーク形成イベントの開催や、遠方都市に在住する帰国留学生と連携した地方での留学説明会を通じ、新規留学生の発掘と将来の親日家・知日家の育成に寄与している、また、令和 7 年 2 月の第 3 回中南米帰国留学生総会では幹事団代表の一人として中南米地域の帰国留学生会との連携を深め、知的交流とネットワークの強化にも寄与している。		

在マナウス日本国総領事館 推薦受章者

氏名	肩書き	住所
ノエミア・カズエ・イシカワ	国立アマゾン研究所（INPA）研究員	アマゾナス州マナウス市
（主な功績） ノエミア・カズエ・イシカワ博士は、国費留学生として北海道大学大学院環境資源学博士課程を修了。２００４年より国立アマゾン研究所（INPA）にてアマゾンの森林を舞台に菌類に関する先駆的な研究を行い、京都大学/JST/JICA 科学技術協力 「“フィールドミュージアム”構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクト」に協力。鳥取大学・日本きのこセンター研究者との共同研究、日本人研究者受け入れ、鳥取大学と INPA の学術協定を締結し研究交流を実現するなど日伯両国の学術交流、学術振興及び相互理解の促進に貢献。		

在リオデジャネイロ日本国総領事館 推薦受賞者

氏名	肩書き	住所
中村 拓文治 (ナカムラ タクブンジ)	日伯文化協会第二副会長	リオデジャネイロ州リオデジャネイロ市
（主な功績） 同人は、平成 18 年に日伯文化協会の文化担当理事、平成 31 年に同協会の第二副会長に就任し、長年にわたり日伯文化交流に尽力してきた。生け花、書道、茶道などの日本の伝統文化の普及に努めてきたほか、日本人ブラジル移住 110 周年記念事業である「日本月間」の円滑な運営に尽力し、また、日伯外交関係樹立 130 周年の皇族御訪問時に日系社会関連行事の実施に携わり、事業・行事の成功に寄与した。こうした取組を通じ、日伯文化交流の促進に貢献している。		

在クリチバ日本国総領事館 推薦受章者

氏名	肩書き	住所
河村 敏和 (カワムラ トシカズ)	クリチバ日伯文化援護協会慈善活動担当副会長兼 「壮寿会」会長 （高齢者事業責任者）	パラナ州クリチバ市
（主な功績） 同氏は、10 歳でドミニカ共和国へ移住後、昭和 37 年にブラジルへ渡りクリチバ市に定住。昭和 51 年から、クリチバ地域の日系団体「ウベラバ青年会」文化部長を皮切りに約 50 年間日系団体の要職を歴任し、平成 9 年の天皇皇后両陛下のクリチバ御訪問では、審議委員長・広報責任者を務めた。また、パラナ日伯商工会議所国際関係部長として対日経済ミッションを実現し、パラナ州と日本との経済関係強化にも貢献した。現在もクリチバ日伯援護協会副会長として、高齢会員支援や日伯友好親善、移住者の支援に尽力している。		

氏名	肩書き	住所
設楽 文枝 (シタラ フミエ)	カストロ日本語学校校長	パラナ州カストロ市
(主な功績) 同氏は、昭和 37 年にブラジルへ移住し、昭和 48 年からパラナ州カストロ市のカストロ日本語学校において日本語教師として教鞭を執り、平成元年に校長に就任した。長年にわたり、同地において日本人をはじめとする児童・生徒への日本語教育に尽力し、日本語の学習環境を整えるとともに、日本語及び日本文化の継承に寄与してきた。また、同州ピライ・ド・スル市の日本語学校でも多数の生徒を指導しており、日本語の普及と次世代の育成に広く貢献している。		

在ベレン領事事務所 推薦受章者

氏名	肩書き	住所
シバタ シルビオ カズヒロ	元トメアス文化農業振興協会（ACTA）会長	パラ州 トメアス市
(主な功績) 同人は、平成 30 年にブラジル国トメアス市でトメアス文化農業振興協会会長に就任し、日系社会の発展と地域社会との交流に尽力してきた。文化交流事業も手がける同協会において、日本人アマゾン移住 90 周年記念には「鳥居門」モニュメントの建設や記念式典を実施し、さらに草の根無償資金協力を活用したニッケイ学校校舎の増築を通じて日系人子弟の教育環境整備に寄与した。また、従来のトメアス盆踊りを「トメアス日本祭り」へと発展させ、日本食フェアの企画などによりイベントの魅力と集客力を高めるなど、日本文化の普及と二国間の友好親善の促進にも貢献している。		

氏名	肩書き	住所
松崎 康昭 (マツザキ ヤスアキ)	元十字路アマゾニア病院事務長	パラ州トメアス市
(主な功績) 同人は、昭和 57 年にブラジル国トメアス市のトメアス・アマゾニア病院の事務長に就任し、さらに昭和 64 年には十字路アマゾニア病院の事務長を務め、長年にわたり医療サービスの充実に尽力してきた。ポルトガル語が不得手な日系一世の高齢患者に対して、きめ細やかな支援と安心の医療環境を提供して日系社会の福祉向上に寄与するとともに、院内衛生管理や感染予防対策を積極的に推進し、医療現場の質と安全性の向上にも貢献してきた。さらに、両病院の運営母体であ		

るアマゾン日伯援護協会では理事や副会長を歴任し、両国間の相互理解の促進と日系社会の発展にも貢献している。

在ポルトアレグレ領事事務所 推薦受賞者

氏名	肩書き	住所
カンノ タエコ	元ポルトアレグレ日本文化協会会長	リオ・グランデ・ド・スール州ポルトアレグレ市
(主な功績) 同人は、平成 16 年にブラジルにおいて日本語モデル校を擁するポルトアレグレ日本文化協会の設立に携わり、初代会長に就任、4 期 8 年にわたり協会運営を担った。その後も理事などの要職を歴任し、長年にわたり日本語と日本文化の普及に尽力してきた。日本語教室の設置や日本文化イベントの企画・主催に加え、平成 18 年のリオ・グランデ・ド・スール州日本人移民 50 周年記念事業、平成 24 年以降の同州日本祭りにおいては、企画段階から運営まで中核的な役割を果たし、事業の成功に導いた。これらの活動を通じ、日本文化の浸透と相互理解の促進に大きく貢献している。		

氏名	肩書き	住所
ギマランエス レチシア・ビエイラ	南伯元国費留学生協会会長	リオ・グランデ・ド・スール州ポルトアレグレ市
(主な功績) 同人は、平成 20 年にブラジルにおいて南伯元国費留学生協会会長に就任し、留学生間のネットワーク構築や日本留学をはじめとする日本文化の普及に取り組んできた。国費留学生としての自身の留学経験を生かし、奨学金に関するシンポジウムを開催するなど、日本留学への関心喚起に努め、国費留学志望者の増加に寄与している。さらに、日本祭りや在ポルトアレグレ領事事務所主催の文化事業に積極的に参加し、来場者に留学体験を伝えることで留学制度および日本の魅力を発信し、日伯両国の友好親善の促進に貢献している。		

氏名	肩書き	住所
コシミズ チギコ	池坊流華道講師	リオ・グランデ・ド・スール州ポルトアレグレ市

(主な功績)

同人は、平成2年に池坊師範科華掌を取得し、平成8年からリオ・グランデ・ド・スール・カトリック大学において華道講師を務め、その後は自宅にて生け花教室を開き、生け花の指導と後進の育成に努めてきた。現地における華道の第一人者として、長年にわたり指導に当たるとともに、日本祭りを始めとする文化イベントや在外公館の文化事業に積極的に参加し、ワークショップや作品展を開催して華道の魅力を発信し、華道の普及と両国間の相互理解、友好親善の促進に大きく貢献している。

氏名	肩書き	住所
フケ マダレーナ	元リオ・グランデ・ド・スール州日本祭り協会会長	リオ・グランデ・ド・スール州ポルトアレグレ市
同人は、平成24年にブラジル国リオ・グランデ・ド・スール州日本祭り実行委員会に参画し、令和2年から1年間、会長を務めるなど、日本文化の普及に取り組んできた。建築家でもある同人は、主に日本祭りの装飾を担当し、和風意匠による空間演出を通じて対日理解の促進に寄与するとともに、SNS等を活用した日本祭りや日本文化の情報発信と普及に努めてきた。さらに、建築分野の専門的知見を生かし、現地の日系団体や日本庭園等における施設・設備の設計および維持管理をボランティアで行い、日系社会ならびに地域社会との友好親善に貢献している。		